

2024年4月07日

「謙遜の衣を着ましょう」

山の頂上では、嵐のために何の香りもしませんが、山のふもとではいろいろな香りに満ちています。

「私は気のように生きたい」という本によると、山のふもとの木の香りにも順番があることが分かります。ダンコウバイ（壇紅梅）が自分の香りを放ち尽くすまでは、サンシュユは自分の香りを放って行きかう人の足をとめたりはしません。ダンコウバイの季節が過ぎるまで、自分の時を待っていて、その香りが消えかける頃、サンシュユは自身の香りを放ちます。

木々が自分の時を待ってつぼみを弾けさせ香りを放つので、山に登る道は季節と関係なく、いつでも楽しむことが出来るのです。

どちらかが弱く足りないというわけではありません。ただ違うだけなのです。私たちの心に、「この違い」を認める謙遜さが生まれれば、人の美しさと自分の美しさは全く違うことを知り、比べなくなります。人が美しいときに私が拍手を送ることができ、自分が美しいときに人が私に拍手をしてくれるのです。

謙遜は、神様が与えて下さった美しい品性でありギフトです。弱さが謙遜の衣を着れば、私たちは信仰の英雄たちのように用いられることでしょう。しかし、弱さが劣等感に変わるなら、神様はそれが癒されるまで私たちを用いられません。

今、すべてにおいて神様だけにより頼む謙遜の衣に着替えましょう。そうすれば、自分の時が近づいてくる足音が聞こえてくるでしょう。

月刊誌 リビングライフより

週報

§ 今年の教会テーマ 「主を仰ぎ見つつ」

§ 今年の主題聖句

「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、
目を離さないでいなさい。」 ヘブル 12章2節
「彼らが主を仰ぎ見ると、彼らは輝いた。」 詩篇 34篇5節

〒513-0035 鈴鹿市矢橋町 471-2
宗教法人 日本ネクスト・タウンズ・クルセード
鈴鹿キリスト福音教会
059-383-5145(教会)

4月07日

本日のメッセージ
聖書箇所

「法廷に立たされたパウロ」
使徒の働き 24章

ユダヤ人たちはパウロをとんでもない異端の教えを広げる首謀者として、彼を殺そうと何度も試みたが成功しなかった。そこで、今度はパウロを法廷に訴えて彼を罪に定めようとしていました。パウロは捕らえられ鎖でつながれた身となったパウロの生涯は、これより殉教の死に至るまで、ロー裁きを受ける罪人としての立場で過ごすこととなりました。

しかし、そのような辛く苦しい中でも、彼は復活の主の証人として、神の恵みに支えられて、常に変わりなく主の証人としての自分を現し続けました。

1. テイルティロ:ユダヤ人の代理者となってパウロを厳しく責め立てた(告発した) 24:2~9
2. パウロは無実を弁明しつつ、証の機会とした 24:10~21

※さばきを受ける身にあつてパウロはどのように対処したか

I コリント 4:3

しかし私にとって、あなたがたにさばかれたり、あるいは人間の法廷でさばかれたりすることは、非常に小さなことです(詳訳聖書:ほとんど問題ではありません)。

それどころか、私は自分で自分をさばくことさえしません。4 私には、やましいことは少しもありませんが、だからといって、それで義と認められているわけではありません。

私をさばく方は主です。

【報告】

※木曜夜の集会について

毎月、第一木曜夜7時半から「ハイナイト」。それ以外は「聖書の学び」をします。

今週から学びがスタートします。テーマは「恵活」です。(「恵みの生活」です。) 私たちクリスチャン生活で一番大切だと感じている内容です。一緒に神様の恵みの素晴らしいさを体感しましょう。

※本日は13:00から4月の「しもべ会」です。

※アンドロイドのスマートフォンを引き続き募集中です。

※来週日曜日には、講師として長沢先生を迎えての特別礼拝、午後からは賛美集会があります。

※4月28日(日)洗礼式が予定されています。

まことの礼拝者

まことの信仰を持っている人は礼拝をささげます。

信仰があるという多くの人は、教会に来て熱心に奉仕をします。

しかし、ある人々を見ていると礼拝の中にいるのではなく、働きの中にいることがあります。しかし、まことの働きは礼拝から流れ出る結果です。まことの礼拝なしに働きを続けると力がなくなり、高慢になり、高ぶります。

神様のためにどれほどの働きをするかが、その人の信仰を現すことではありません。礼拝の中にどれほど深く入るかが、その人の信仰を語ります。

礼拝とは何でしょう。神様の臨在です。礼拝をささげ、働く人は疲れません。しかし、礼拝なしに働く人は長続きせず倒れてしまいます。

「愛するあなたに」 ハ・ヨンジョ